



学校だより

<家庭数> 第10号
令和3年1月29日発行
品川区立第四日野小学校
校長 島崎 一江
<http://school.cts.ne.jp/hino4/>

—かかわる 創る—

副校長 小山 努

○大寒を越え暦の上では立春を迎えるとはいえ、なお、寒さ厳しき時節が続きます。冬の朝、校門に立っていると、時折寒風が吹きすさび身も心も震えてしまうことも度々。そんな時「おはようございます！今日も行ってきます！」と、寒さにも負けずマスクからこぼれんばかりの笑顔の1年生が声をかけてくれるのです。その清新な息吹に「よっ、今日も一日前へ！」と心機一転、1年生に分けてもらった笑顔をもって一日をスタートすることができます。振り返ると昨年4月、初めてこの校門でお迎えした1年生。コロナ禍の「激しい変化」と「新しい生活様式」の中でも、堂々と成長している姿に「希望」と「感謝」の思いが湧いてきます。

○一方、この「激しい変化」の2020年度は、新しい学習指導要領が全面実施された年でもあります。文部科学省が掲げた新学習指導要領では、「①学びに向かう力、人間性など」「②知識及び技能」「③思考力、判断力、表現力」の“育むべき資質・能力の三つの柱”を、全教科・領域の学習や学校生活の中で身に付けることを目標にしています。さらに、この三つの柱の中でも①は、②と③の資質や能力を子どもたちが人生の中でどのように生かしていくのかを決定づける要素として重要視されています。「学びに向かう力、人間性」とは、「主体的に学びに取り組む力」や「多様な他者を認め、関わり合いながら問題を解決し、共に価値を創造していく力」等と定義され、変化の激しい社会の中で幸福な人生を歩むために必要な資質・能力として挙げられています。

○本校では昨年度より、この三つの柱の資質や能力の育成を目指して、品川区教育委員会研究学校の指定を受けて、教職員一同、算数科における授業研究を中心に授業改善に取り組んでまいりました。具体的には、子どもたちが「分かったのしい」と思える授業の工夫を通して、自ら学ぼうとする主体的な力や教師や児童、児童相互に対話をしながら、共に問題を解決し、より学びを深めようとする力を育む授業・生活メソッドを実践してきました。「激しい変化」「新しい生活様式」の中で、課題はまだ山積みです。が、少なからず、朝から元気に「学びに向かう」として「他者と関わり合い、笑顔という最高の価値を共に創造できる」児童が一人、二人…と育っていることに、その成果の一端を実感することができるのです。

○今後も、子どもたちの「学びに向かう力、人間性」を育むにはどうすればよいのでしょうか？本校の研究を指導していただいた講師の先生は「教師と児童、児童相互の聴き合い伝え合い、認め合い励まし合う“対話”を通じた相互啓発が、自ら学ぼうとする心とより深い学びを呼び起こす」と、示してくださいました。この2月、授業中に加え、休み時間を利用して担任と全児童一人一人が1対1でじっくり対話する「子ども面談」に取り組み、相互理解・啓発をすすめています。さらに、学校だけでなく、家庭でも地域でも、大人が子どもとの“対話”を試してみてください。そして、共に理解し合い、助けたり助けられたりする「共育」の風土を広げ、子どもたちの「学びに向かう力、人間性」を導いていきたいと思っております。

